

# 岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 38  
2019.6

TOPICS

1

## 米国務省「重要言語奨学金(CLS)プログラム」歓迎式典を挙



本学は、米国務省「重要言語奨学金(CLS)プログラム」の派遣先に国立大学として初めて採択され、そのスタートとして6月17日、国際交流会館で歓迎式典を挙りました。米国務省により選抜された全米トップクラスの大学生・大学院生26人が、6月14日から8月10日までの8週間、本学で日本語と日本文化を集中的に学びます。

歓迎式典で榎野博史学長は「期待と不安があるかと思いますが、どうか一歩踏み出して積極的に学んでください」と式辞。CLS学生一人ひとりが出身地や好きな日本語などを自己紹介した後、学生代表のデイビッド・アンダーソンさんが「異文化交流を通じて視野や見識を広げ、さまざまな視点から世界を捉えられる人材となれるよう、充実した8週間を過ごします」とあいさつしました。学生らは、日本語・日本文化の授業をはじめ、課外活動に参加するほか、2泊3日のホームステイも行う予定です。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id8595.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id8595.html)

TOPICS

2

## 岡山大学ダイバーシティ&インクルージョンセミナーを開催

本学ダイバーシティ推進本部は6月5日、「第1回岡山大学ダイバーシティ&インクルージョンセミナー ―岡山大学におけるダイバーシティ&インクルージョンの推進―」を、津島キャンパスの自然科学研究科棟大会議室で開催しました。

「障がい」をテーマに、グローバル人材育成院の横井博文教授(CLSプログラム インスティテュート・ディレクター)、グッドジョブ支援センターの岡本睦美総括リーダー、高大接続・学生支援センター障がい学生支援室長の原田新准教授が講演。アメリカにおけるD&Iに対応した実践的な取り組み事例や、本学における障がい者雇用および障がい学生支援の現状と課題などを紹介したほか、パネルディスカッションも実施し、活発な意見交換が行われました。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id8572.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id8572.html)

Pick up!

## 情報統括センターリニューアル！



本学情報統括センターは、改修工事が完了したことを受け、6月4日、リニューアルオープンセレモニーと館内施設視察会を行いました。

セレモニーでは、榎野博史学長と村上昌己情報統括センター長のあいさつに続き、テープカットを行い、リニューアルを祝いました。榎野学長は「本学が推進しているSDGsとSociety5.0に対応する人材育成の中核となる施設が完成した」と話しました。

改修工事では、マルチメディア教室の改修のほか、アクティブラーニングスペースやアクティブラーニングスタジオ、夜間も利用できる学生ラウンジを新設し、ICTを活用した学びができる環境を整備しました。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id8563.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id8563.html)

TOPICS

3

## 倉敷考古館と学術連携協定を締結

本学は6月21日、公益財団法人倉敷考古館と学術連携に関する協定を締結しました。

本協定は、岡山大学と倉敷考古館が、双方の所蔵資料を中心とした研究を進めることにより、展示および学生教育の充実・発展を図り、地域への貢献を図ることを目的としています。調印式では、大原謙一郎倉敷考古館理事長と榎野博史学長が協定書に署名。榎野学長は「本学と倉敷考古館が保有する、質、量ともに優れた遺産の価値が高まるよう、いろいろな形で連携していきたい」とあいさつしました。大学共同利用機関法人人間文化研究機構の平川南機構長による記念講演も開催しました。

今後この協定に基づき、今までの研究をさらに発展させ、相互の資料を用いて特別展を実施するなど、研究成果公開についても協力していく予定です。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id8599.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id8599.html)



## 倉敷考古館と岡山大学との学術連携協定調印式



TOPICS

4

## 「学都基金理事会・学都振興会・感謝の集い」を開催

6月18日、「学都基金理事会・学都振興会・感謝の集い」を津島キャンパスで開催しました。

榎野博史学長を会長として、学都振興会会長の小長啓一氏、県内企業、本学同窓生、理事ら17人で構成する理事会では、平成30年度学都基金収支決算報告および令和元年度学都基金支出計画などを報告。学都振興会には、学都基金の取組みへの賛同者である学都振興会の会員55人が出席しました。学都基金からの奨学金で海外研修に参加した医学部保健学科2年生の安藤佑奈さんが、ミャンマーおよびラオスでの研修とインターンシップについて発表を行った後、榎野学長が「岡山大学の“熱き”源流と未来への可能性」と題して、本学の取組について講演を行いました。感謝の集いでは、榎野学長が高額寄付者11人へ感謝の楯を贈呈。学内関係者が高額寄付者へ感謝の気持ちを述べるなど、活発な意見交換が行われました。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id8602.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id8602.html)

PRESS  
RELEASE

1

巨大な集光アンテナをもつ光化学系Iの立体構造を解明  
～太陽光エネルギーの高效率利用に前進～

異分野基礎科学研究所の高橋裕一郎教授、菅倫寛准教授、小澤真一郎特任助教と大阪大学蛋白質研究所の宮崎直幸助教（現：筑波大学）らの共同研究グループは、光合成において、光エネルギーを効率的に吸収し二酸化炭素を糖に変換するために必要な還元力を作り出す、緑藻の光化学系I—集光アンテナタンパク質超複合体の立体構造を、クライオ電子顕微鏡を用いて原子レベルの解像度で決定することに成功。光合成において太陽光エネルギーを効率よく利用するために必要となる、集光色素とタンパク質の詳細な立体配置を明らかにしました。本研究結果はResearch Articleとして6月10日（英国時間）、英国の科学雑誌「Nature Plants」に掲載されました。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release\\_id632.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id632.html)

